

第3回設立準備会資料(その1)
 (仮称)佐渡伝統文化振興財団が取り組む事業(案) 調査票(集約)

NO	事業項目	事業内容(手段、方法など)	事業内容への意見
1	後継者育成事業	<p>各小学校に講師を派遣する。文化祭の発表などの講師として参加し、伝統文化にチャレンジャーを派遣する。中学生においては、文化祭などを利用し、月2回程度の講師派遣する。</p> <p>在学数の多い小中学校を中心に巡回し、月1回程度実施する。姉妹提携都市などにも積極的に出前授業を行う。</p> <p>学校教育、社会教育との連携</p> <p>放課後体験教室の活用や各学校における地域学授業への民謡指導の講師派遣</p> <p>休休み、給食時間等を利用した音楽CD等の提供</p>	<p>U教職や保護者、児童への動機づけ(転機・継続への対応) ②ビデオ等で撮影(講師不在時の練習対策、WEB上での情報発信素材) ②発表の場と評価の機会(ハレの場)は必要(継続への動機づけ)</p> <p>伝統文化に頻りに触れる機会をつくる意味では、全ての小・中学校の文化祭において郷土芸能の出し物を定例化してみるのも一考の価値有。例えば、小学5年生と中学2年生に限定して行うなど。講師派遣は、十分な人材を確保した上で講師の負担にならない程度にカリキュラムを組むべき。また、教育現場で導入が進むアクリル・ラミネートの積極的な採用も肝要。</p> <p>謝礼の統一を実行してほしい</p> <p>講師の負担が少なからず、考えにくいことが必要で、文化祭などの出し物については無理なく学べると思いますが提供は可能だと思いますが、現実的なニーズを把握しないと配布しただけで終わる可能性があります。</p> <p>iPadなどのタブレット端末を利用した動画視聴も併せて。</p> <p>記憶の底に残すのに、無理がない方法だと思います</p>
2	'伝統文化'活用事業	<p>陶器においては、佐渡の酒の陣などに、佐渡の陶器を利用してもったり、販売できるようにする。</p> <p>酒蔵とのコラボ商品を作り、新しい佐渡のお土産を開発し、全国各地のイベントの際、物販と一緒に佐渡の焼物の知名度を上げる。</p> <p>単体ではなく、色んな商品と伝統文化のコラボデザインをつくり、お菓子の形、パッケージや、ダンボール、包装紙、袋などに利用してもらおう。</p> <p>鬼太鼓や、佐渡おけさなど、親しみのおもしろいデザインで、学校で毎年度最初に配られる毎日使う連絡ノートなどに利用してもらおう。一言メモのように、佐渡の文化を少しずつ記載して、各学校での購買などで買えるようにする。親も目を通すため一緒に読んだり、子供はお絵かきに自然と真似をして覚えるのではないかと思う。また、お土産としても購入できるよう、協力店で販売してもらおう。</p> <p>鬼太鼓・祭礼神事・民謡・人形芝居等の発表会を定期的に開催する。地元市民ほか観光客の観覧機会としても位置つけた事業。各団体に発表の機会を提供することにより、伝承につなげることを目的とする。(観覧料徴収)</p>	<p>ニーズが不明のため、商品化しても売れない可能性ががあります。</p> <p>トータルでプロデュースされたデザインを使用し、ふるさと納税返礼品や付録品などで、反応を見る方法もあると思います。</p> <p>自主財源の獲得手段として有望。本来なら、佐渡汽船の仲買世通りにこのようなお土産物が並ぶと大変喜ばれると思う。この事業は開発費などが相当掛かるので組織運営の予算規模をどうするかを鍵。</p> <p>現在も、パッケージなどに文弥人形などを利用していらつしやるところもあり、目にする機械が増え、目にするだけで佐渡を連想できることは、よいと思います。たくさんでなく、その商品にあったものを考える必要があります</p> <p>伝統文化との係わり方に無理がなく、自然でよいと思います。</p> <p>キャラクターや機能などデザイン力が問われる商品かと思えます。</p> <p>学校で使う文房具の1つである下敷きに伝統文化を紹介した図案が印刷されていると面白い。各学校で着用する体操着などアパレル的な部分にも地域固有のアイデンティティが表れていると個性的。コレクション・アイテムにもなる。</p> <p>学校の教材利用は、必ず毎年購買につながるほか、身近に文化に接することができる近道だと思う。</p>
3	営業事業	<p>市民・観光客が伝統文化の内容や公開日(時間等)等の情報を財団HP等で公開する。</p> <p>伝統芸能をPRするための創作芸能集団を結成し全国各地、海外公演も視野にイベントへ派遣する。グッズ等の販売も行うとともに、グッズや公債招待を返礼としたクラウドファンディングで活動費用を捻出する。</p> <p>日本各地のロックフェスやアートフェスなど、若者が集まるイベントへ出場する。メディアミックスによる展開。</p>	<p>継続実施に向けた課題抽出のために、詳細アンケートや聞き取り調査が必要です。その結果は、常設の観覧施設の開設有無にも関連してきます。</p> <p>開催する『Do』よりも、いつ?どこで?の『When』や『Where』問題を解決しなければいけない。特に、島外から来る人にとっては『何かいつ観覧可能なか』が何よりも重要。</p> <p>事業規模が大きく先行の成功事例があれば、後発でも差別化して成功するレベルが維持できるかがポイントだと思います。</p> <p>島外の佐渡文化ファンを増やす意味で重要な事業となる。成功へ導くには相応な覚悟が必要。</p> <p>とても、興味があります。鼓動さんに続く、佐渡の新たな魅力が期待できます</p>

NO	事業項目	事業内容(手段、方法など)	事業内容への意見
		<p>オンラインショップの開設 新設する地域商社と連携し、佐渡における価値ある伝統文化を発掘する。 売るための工夫をアレンジした商品を開発し、オンラインショップで販売する。</p>	<p>まず情報収集とデータ化。次に商品化への選択と投資の集中だと思います。 佐渡でしか買えない物(島られる・食べられる等も同様)と、佐渡以外でも買える物の差別化は慎重にしないといけない。純度の高い貴重な佐渡文化を結果的に安売りにしてしまうようなアプローチは、逆に価値を著しく貶めてしまうので注意が必要。</p>
		<p>①伝統建築物の継承と活用・・・2次、3次・・・の活用 (景観維持・観光資源の確保) ・社寺泊、蒸膳、体験(工芸、写経、座禪、梵鐘撞き)、パワースポット開拓、インスタ(仮装)舞台設定 ②伝統建築修復技術の維持と向上・・・韓国などへの派遣、販売等 (国内への職人派遣) ・国内の技術者不在エリアでの修復業務受託 (伝統建築部材の販売、輸出) ・国内外への佐渡産木材による伝統建築部材の提供</p> <p style="text-align: center;">開 ト ー タル な 事 業 展</p>	<p>協力可能な社寺の開拓と組織化が必要です。 有識者や学芸員を軸にした専門家や職人らの合議体による補佐で組織の屋台骨を強固に支える。</p>
4	基礎データの作成	<p>無形文化財や伝統建築物(特に修理時)のデジタルによる記録 ①AIやロボットによる再理や伝統建築物製作の革新に対応 ②正確な文化(遺産)としての記録 ③広報素材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統技術、芸能の調査、映像収録 ・伝統料理の調査、調理研究、伝承 ・神社、仏閣調査、宗教、冠婚葬祭の調査、研究 ・佐渡島内の技術を持った人、伝統芸能を継承している人を発掘 ・島民に対する有形無形の文化財に対する啓蒙活動 <ul style="list-style-type: none"> ・芸能団体出演やWS、地域との交流などワンストップ窓口、コーディネート(島内外間わず) ・島内芸能団体×島内伝統技術者のマッチング、問合せ窓口(ex. 面、わらじ、衣装、パチなど) ・手が足りない地域×祭り人材バンク(仮称) マッチング、派遣(ex. 実際は善和島神社の神輿の手が足りない)と鼓童に相談あり…) ・保存維持サポーターの募集 ・1年に2ヶ所・文化財級資源(寺社仏閣)の修繕×島内技術者・材・お金の地産地消、循環の仕組みづくり(例: 専門学生(宮大工)、佐渡茅葺き×カモケケン) ・文化財級資源(古民家、歴史的建造物など)×地域ビジネス(宿、レストラン、シェアオフィスなど)の情報収集・提供、事例発信、許可・認可支援、相談窓口など(佐渡ヘリテイジマネージャー、伝泊、先進地との連携) ・祭り体験ツアー×本物の体験、祭りにきて欲しい・人手が足りない地域(ex. EC、観光圏、大学生、女子祭り) ・有形無形文化財スタディツアー、技術体験、視察ツアー ・有形無形文化財×新しい価値(ex. ダイニングアウト、能舞台活用の例など) ・有形無形の文化財の観光資源としての活用の促進 ・島外からの来島客に、有形無形の文化財の鑑賞機会を提供する演者、ガイドの養成 	<p>今後の活用を考えて、どの様なデータが重要なかの調査が必要です。 記録や情報へのアクセスを試みる時、『簡単でスピーディー』が現代アーカイブとして必須。</p> <p>①現存する資料、データの集中管理。 ②調査や保存、研究対象への2次・3次活用を含めた具体的提案が必要です。 専門知識を持った人材の確保が急務。その人材が各地に散らばって地道に研究・発掘しないといけない。また、調査対象の協力を得るためには涉外能力の育成も重要。古民謡の再興などは目玉の事業となるだろう。</p> <p>①情報収集(リアル)に更新が可能な各団体のネットワーク化) ②ボランティアの組織化 ③支援企業、団体、個人の編成 ④有料支援(お助け団体・個人)のリスト化 以上を「NO5 伝統文化活用事業」への支援展開します。</p> <p>予め完璧に用意されたカリキュラムや固定化された滞在プログラムおよび体験プログラムが好きで日本人と、フリーハンドで即興的な旅を主体的に楽しむ外国人とは分けて考えべき。結局、日本人は日本人らしい発想のスタート地点から物事を考えてしまつたため、異国文化圏の着想に追いついていない。長らく繰り返して来た日本人的発想を大転換して取り組む時代となっている。</p>

第3回設立準備会資料(その1)
 (仮称)佐渡伝統文化振興財団が取り組む事業(案) 調査票(集約)

NO	事業項目	事業内容(手段、方法など)	事業内容への意見
5	'伝統文化活用事業	<p>民謡トリエンナーレ(3年に一度の大規模な民謡文化祭)を開催。土着音楽の魅力を国内外問わずアピールするイベント。</p> <p>発表する場所が欲しい人、発表する人が欲しい施設、民謡鬼太鼓を見たい人をつなげる。人が多く来る観光シーズンに、飲食店や施設などで見せられる場所があれば、広げることができるとが。団体は、事前予約となるので、その時に合わせて、観光向けに、今月は何処何処で、何のイベントがありまると告知する。オプションに取り入れることで、交通費や謝礼金などが確保できる。</p> <p>鬼太鼓・祭礼神事・民謡・人形芝居等の発表会を定期的に開催する。地元市民ほか観光客の観覧機会としても位置つけた事業。各団体に発表の機会を提供することにより、伝承につなげることを目的とする。(観覧料徴収)</p> <p>市が受け入れた大学生を地域のまつりに参加させるなど、都市と地域の交流をコーディネートする。(市や観光DMOからの受託事業)</p> <p>〔伝統芸能〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生…島内の伝統芸能の交流 ・中学生…国内での佐渡伝統芸能展開支援(イベント出演、他地域芸能との交流) ・高校生…海外での佐渡伝統芸能展開支援(グローバル、グローバル人材育成) ・大学生…島内伝統文化(有形・無形問わず)の調査研究支援、提案募集 ・大人(若手)…島内芸能団体交流→島内・国内外での地域を越えた協働・支援・発信。 <p>他集落から応援してもらおうシステムづくり。</p> <p>〔伝統技術〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術、芸能を披露してもらおう場、ワークショップ(学校へ出向くなども含め)を開催。若い人たちに伝える、受け継ぐ。 <p>“佐渡の伝統芸能を楽しむツアー”の観光商品の開発も考慮</p>	<p>テレビ局とのタイアップ。全国系列局との連携等の動員プランは必要です。民謡だけでなく神事芸能やその他の佐渡文化全般でも取り組むべきイベント。</p> <p>ネットワーク構築とデータベース化を行い、中長期を見据えた効果的な運用システムの構築が必要です。『稼ぐ』とは、ニーズに敏感であることが大前提。佐渡文化を見せることを品格のあるサービスとしながらも、徹底した戦略とマーケティングが重要。</p> <p>お祭、イベントの情報収集や、情報を、お店などに提供が必要だとおもいます。</p>
6	'後継者育成事業	<p>加工技術の研修の場の設置【竹の例】</p> <p>竹細工は大まかに工芸品と生活用品に分類されるが、生産者はいずれも後継者不足により技術の継承が危ぶまれている。</p> <p>一方、都会では富裕層の中で自然志向に回帰し生活用品のニーズが注目されているものの、生産者不足によってその受注に追いついていない現状を開く研修を通して生産者の開拓につなげ、佐渡の資源である竹製品の販路の拡大すること、技術の継承と地場産業の向上、更には、佐渡の豊かな自然の発信と環境整備につながる。</p>	<p>専門学校に設備等があるため、連携して短期講座を開講することで、ニーズ調査は可能です。</p> <p>竹細工に限らず、島内には貴重な工芸文化が多く見られる。しかし、零細で作家性の強い状態であるため、新たな担い手を受け入れられるだけの事業規模が無い。従って、後継者は種類縁者に限られ年々廃業の危機が募る。個々の要素などを集結させ量産体制を視野に入れた産業化への道を探るべき。</p> <p>後継者問題もそうですが、実践習いたいと思っている人は多いのですが、教室みただいところがなく、体験はできても教えてもらえる人がいないということもあります。基本を教えてくれるような講師を、探す、育てることも必要だと思います。</p>
7	施設整備事業	<p>観光客が訪れた際に必ず佐渡の伝統芸能を味わえる施設は収益の核として重要。各伝統芸能や各伝統工芸に特化した造りの施設であり、且つ、各史料の管理や各芸能団体が気軽に練習できる環境および景観を整備する。『伝統文化享受権』の宣言都市を目指す。</p>	<p>一カ所での集約は難しいと考えます。各拠点で行っているものを来場者の視点でブラッシュアップし、線で結んだ面での展開が良いと考えます。</p> <p>単純なハコ物発想ではない、佐渡文化を誰もが好きな時に好きな様に享受できる環境作りを目指すべき。</p>

第3回設立準備会資料(その1)
 (仮称)佐渡伝統文化振興財団が取り組む事業(案) 調査票(集約)

NO	事業項目	事業内容(手段、方法など)	事業内容への意見
8	強力な組織体制を確立	島内全ての文化的コンテントを同じ土俵に上がらせるべく、あらゆる利害調整と交渉を一手に引き受ける組織の編成を目指す。 ・ふるさと納税、休眠預金、遺贈などの受け皿となる財団へ ・担い手育成、Uターン、次世代継承、プロジェクトへの助成、基金 ・観光、地域、産業、教育(学校、社会)、福祉 ・産官学、民間団体	事業推進のポイントです。ビジョンと戦略が必要です。究極的には誰がリーダーとなって動くか、これに尽きる。
9	伝統文化専門学校と連携し、伝統工芸部門を運営する。	伝統文化専門学校の卒業生を雇用し、全国の文化財の出張修繕を受託する。佐渡の文化財修繕を専門学校生の実習に使用し、育成とともに文化財保全を図る。	佐渡に魅力を感じるかがポイントです。3~4年佐渡に居住するので、佐渡文化や伝統などに係わることで佐渡への愛着も高まります。 『稼ぐ佐渡職人』が連想できる。技能を活かして外貨獲得の礎をつくる意味で非常に興味深い事業。
10	佐渡の食文化の継承	佐渡の食文化を継承するため、イベントなどで旬の食材を使用したさどごはんを提供する。(市からの受託事業) さどごはんのつくり方講習(参加費の徴収)	まずは、記録としてのデータ化が必要です。 食文化の多様性とクオリティの高さは、本来今すぐにも訴求すべき点である。 佐渡食材の販売へもつながると思います
11	文化財団が保管管理する美術品や工芸品の貸付事業	保管している美術品、絵画、工芸品などを民間のギャラリーやイベントで展示できるようレンタルし、観覧できる機会を増やす。	デジタルのカタログ化と二ーズの見込めるバック化が可能なかの調査が必要だと考えます。 美術品を閉じ込める時代から、開放する時代へ。 ギャラリーや、イベントだけでなく、ホテルやお店などもレンタルできるとよいと思います
12	文化財団が保管管理する写真や映像の民間利用	文化財団が保管している昔の写真や映像の民間利用について使用料を徴収する。	デジタルのカタログ化と二ーズの見込めるバック化が可能なかの調査が必要だと考えます。 VRやAR時代に向けた新しいコンテントの整備が急務。
		①「常設の観覧施設」について・・・常設の観覧施設の施設には、否定的な考えの方が強い。伝統芸能のようなものは、できるだけ地域に根ざした本物に近い形でみてもらう方法を考えるべきものと思う。「あの集落に行けば文弥人形とノロマ人形がみられる」「鬼太鼓を見たいなら新種の祭り」というように。何もかも一カ所というのは、どんなものだろうか。 ②「取り組むべき事業案」について・・・私の能力では回答不能です。すみません。財団として取り組む伝統文化の対象や問題点の洗い出しが明確になっていないので、いきなり個別具体論になると回答のしようがないのです。たとえば「鬼太鼓については？」ということであれば、このような問題点があり、このような対策が必要だという回答のしようもあるのですが、大きく「伝統文化の保存継承策を問う」ということなら、「後継者育成」と「支援・助成等の各種インセンティブ」につきまると思っています。日期的に詰まっているためとは思いますが、結論だけを妙に急ぎすぎているような感じがします。	

第3回設立準備会資料(その1)
 (仮称)佐渡伝統文化振興財団が取り組む事業(案) 調査票(集約)

NO	事業項目	事業内容(手段、方法など)	事業内容への意見
13	その他	<p>今回、各事業内容(アイデア)への意見ということでしたが、それぞれがどれか必要で素晴らしい、意見するところが正直憚られました。一方、それぞれの事業に対する意見だと、どうしても各論になってしまいがちだと個人的には感じ、もう少し分類を大きく捉え(下記のようなイメージ)、そこからそれぞれの事業について「緊急性」「重要性」「現実性」などを見据えて、考えたほうが良いのではと恐れながら感じました。</p> <p>また、この財団が何を「目的」とするか、その明文化も合わせて考える必要があると感じます。その「目的」を達成するための「事業」だと感じますし、その拠り所が無いと「事業」がぶれてしまうように感じます(定款でも「目的」は必要になると感じます)。</p> <p>■ 佐渡伝統文化振興財団が取り組む事業分類(イメージ)</p> <p>1、後継者育成事業 一 小中学生、高校、大学生対象 一 大人対象(技術者等研修) 一 伝統文化専門学校</p> <p>2、伝統文化活用事業 一 イベント出演、開催(芸能集団、トリエンナーレなど) 一 販売、商品開発 一 体験交流ツアー 一 食の提供 一 美術品・工芸品および写真・映像等の貸付、提供 一 伝統建築物を活用した事業</p> <p>3、基礎データの作成 一 有形、無形文化財の記録、調査</p> <p>4、施設整備事業 一 観光交流施設(発表、交流、練習の場) 一 文化財級資源修繕</p> <p>5、総合窓口 一 島内芸能・文化団体 相談、交渉窓口 一 横の連携 一 寄付受け皿、助成窓口</p>	

○ 文化財団の目的及び事業（定款記載事項）

（目的）

佐渡の歴史、伝統文化を基盤として、新しい佐渡文化の創造活動を行うとともに、芸能、文化の創造活動の奨励及び育成並びに文化財の保護を通じて佐渡文化の豊かな創造、発展に寄与することを目的とする。

（事業）

この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 歴史、芸能、工芸などの記録、文化資料の保存及び調査研究

例：合併後の市史編纂及び旧市町村史の整理、研究

- (2) 伝統文化の継承活動の奨励及び支援

継承事業

例：小・中学校、高等学校等への講師派遣

- (3) 伝統文化及び文化財を活用した文化振興

活用事業

例：創作芸能集団の公演、宮大工への実習環境の提供（神社・仏閣の修復等）

- (4) 伝統文化及び文化財の保護に関する支援

例：文化財修復及び保存に係る助成

- (5) 佐渡文化の対外発信や国際文化交流

情報発信事業

例：島外及び国外に向けた佐渡学のPR及び異文化交流

- (6) 文化的な施設の管理運営に関する事業

例：文化会館等の管理運営（受託）

- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

「地域おこし企業人」交流プログラム

地方公共団体が、三大都市圏に所在する民間企業等の社員を一定期間受け入れ、そのノウハウや知見を活かし、地域独自の魅力や価値の向上等につながらる業務に従事してもらうプログラム。

対象者

三大都市圏に所在する企業等の社員

※三大都市圏に本社機能を有する企業等については派遣時に三大都市圏に勤務することを要しない

活動地域

- ① **定住自立圏**に取り組む市町村
(中心市及び近隣市町村)
- ② **条件不利地域**を有する市町村

期間

6月～3年

特別交付税措置

- 企業人の受入の期間前に要する経費
上 限 額 年間100万円(措置率0.5) / 団体
(派遣元企業に対する募集・PR、協定締結のために必要となる経費)
- 受入に要する経費
上 限 額 年間350万円 / 人
- 企業人が発案・提案した事業に要する経費
上 限 額 年間100万円(措置率0.5)

民間企業

- 社会貢献マインド
人材の育成・キャリアアップなど
- ⇒ 民間企業の新しい形の社会貢献
- ⇒ 多彩な経験を積ませることによる
人材育成・キャリアアップ

自治体

- 民間のスペシャリスト人材
を活用した地域の課題解決へのニーズ
- ⇒ 民間企業において培った専門知識・業務
経験・人脈・ノウハウを活用
- ⇒ 外部の視点・民間の経営感覚・スピード感
覚を得ながら取組を展開

【地域における企業人の活動事例】

(ICT分野)

- ICTを活用した高齢者生活支援・アクティブシニア活躍支援・健康増進事業

(観光分野)

- 観光分野の専門知識や経験をいかし、観光連携組織(DMO、観光協会等)との連携によるインバウンド対策・着地型旅行商品の開発・閑散期の誘客対策

(シテイクプロモーション)

- 営業の専門知識や人脈と経験をいかし、地域ブランドを大都市圏でPRし、販路を拡大(エネルギー分野)
- 再生可能エネルギーの専門知識をいかし、新産業及び地域雇用を創出

